

# デスモスチルスの全身骨格



この標本は、絶滅してしまった哺乳類、デスモスチルスの全身骨格のレプリカです（登録番号 GSJ F15156-1）。レプリカのもととなった化石は、北海道枝幸町歌登の貝化石を含む砂岩層から 1977 年に発見されました。これは、世界でも珍しい、頭の骨をはじめとするほぼ全身の骨格がよく残っている標本です。デスモスチルスの化石は、今から約 2800 万年前から約 1100 万年前の、日本から北アメリカの太平洋側の浅い海で堆積した地層だけから見つかっています。

デスモスチルスの仲間は、円柱形の柱をいくつか束ねたような奥歯に特徴があり、束柱類そくちゅうるいと呼ばれています。この奥歯で貝や海辺の草を食べていたと考えられています。また、ひじやひざなどの関節から、ワニやカエルのようなガニマタの脚の形をしていたと考えられています。しかし、生活の様子など、まだ謎が多く、現在も研究が進められています。（地質標本館室 森尻理恵・下川浩一）